

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和2年度第1回ふじみ野市総合教育会議		
開催日時	令和3年3月26日（金） 開会時刻 午後5時20分 閉会時刻 午後6時10分		
開催場所	ふじみ野市役所第2庁舎B301会議室		
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名
	市長	高畑 博	福祉総合支援チームリーダー
	教育長	朝倉 孝	福祉総合支援チーム主査
	教育長職務代理者	富田 信太郎	
	委員	塩野 好一	
	委員	丸山 昇	
	委員	茂井 万里絵	
会議の議題	（1）子どもの学習支援における支援状況と成果報告について （2）その他		
会議の公開又は非公開の別	公開		
会議の非公開の理由	-		
傍聴人の数	0人		
会議の内容	別紙のとおり		
会議資料	（1）次第 （2）子どもの学習支援における支援状況と成果報告について		
事務局	金子総合政策部長、経営戦略室（武井室長、澁谷主査、佐川主事）		
議事の確定	確定年月日	令和3年4月20日	
	記名押印又は署名	役職名 市長 高畑 博 ㊟	

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
市長	<p>－開会－ 事務局より、議題及び参考資料について説明 傍聴人について「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定」により、原則公開となることを説明。 －あいさつ－</p>
事務局	<p>総合教育会議につきましては、市長が主宰することとなっております。これからの進行につきましては、市長に行っていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>それでは、次第に沿って進行してまいります。次第のうち議題（1）「子どもの学習支援における支援状況と成果報告について」説明を、福祉総合支援チームよりお願いします。</p>
岩崎チームリーダー	<p>－資料に基づき説明－</p>
市長	<p>ただいまの説明について何かご質問やご意見はありますか。</p>
丸山委員	<p>最も支援のニーズがあるところに市の支援が行き届いていることに感謝します。 市としてニーズを把握し、具体的な取組を行えていることは、ふじみ野市として誇れる施策・取組だと考えます。 この誰一人取り残さないという姿勢と取組を、教育関係者だけでなく全ての市民に知らせて欲しいと思っております。</p>
富田教育長職務代理者	<p>私もこのような取組に関して感謝を申し上げます。 p5についてですが、表の令和2年度の利用申請者数が減少していることは、コロナの影響は考えられますか。</p>
岩崎チームリーダー	<p>今年はコロナ禍ということで、通常5月から開始しているところ、教育委員会とも相談の上、学校の6月1日からの分散登校に合わせて、本事業も6月から開始しました。また、大きな会議室を利</p>

<p>市長</p>	<p>用しても、新しい生活様式に対応するため、利用人数が絞られてしまった結果、56人の利用者が目一杯でした。</p> <p>来年度は、コロナの状況が緩和されましたら、定員の80名が利用できるようにしたいと考えています。</p> <p>先日、庁舎内を見回っていたところ、県立高校入試を前日に控えた女子生徒とお会いしました。試験前日ということもあり、来ているお子さんも少なかったですが、「頑張ってるね」とお伝えしました。</p>
<p>富田教育 長職務代 理者</p>	<p>以前、教育委員の研修で、大学の教授の方のお話を聞く機会がありました。学力と家庭の経済力の関係について、生活困窮世帯の学力の低さが偏見ではなく、データとして表れているとのことでした。</p> <p>そうした、学力の劣る子どもたちを救わなければいけないということで、これは決して人権的な問題だけでなく、その子たちをしっかりと社会に送り込むことが、社会のためになっていきます。ただ救うというだけでなく、先ほど説明の中にも庁内外関係機関への再啓発とありましたが、市民全員が子どもたちを取り巻く状況を知ること、みんなで底上げをしていくことが大事になってくると思いますので、引き続き発信をしていただければと思います。</p>
<p>丸山委員</p>	<p>費用対効果という面で考えますと、最も効果的な投資だと思えます。子どもたちはどこに生まれるかによってある程度可能性が限定されてしまいます。一番深いなかなか手の届きにくいところへ先手を打って施策を切り込んでいる点は素晴らしいと思います。</p> <p>豊島区の教育の中では、学校で配付しているタブレットにベネッセのソフトを利用しているとのこと。今までの教科書内容に加えて民間活力の導入により、さらに費用対効果をあげていっています。ふじみ野市でもそうした取組を推し進めて欲しいと思います。</p>
<p>茂井委員</p>	<p>生活支援事業という部分が素晴らしいと思います。子どもたちには学習だけでなく生活も伝えていく必要があると思います。</p> <p>また、福祉と教育を合わせて考えていかなければと思います。</p> <p>p5にあるように、今は発達障がいなども増えており、早くからの支援を行うことが大事なので、手厚くしてもらいたいと思います。</p> <p>多くの自治体が、利用世帯割合で生活保護世帯が9割を占める</p>

	<p>中、ふじみ野市では、国・県が目指す割合に近いものとなっているということで、どのように分析しているのか教えていただきたい。</p>
<p>中村主査</p>	<p>もともと、福祉総合支援チーム自体が生活困窮世帯の支援を行っている部署であり、その部署で学習支援を行っているところが、大きいと考えます。また、相談体制を組んで、生活困窮者への支援を行っています。基本的な相談の対象は大人の方ですが、お子さんがいらっしゃる場合には、学年等の状況を把握して、学習支援についても案内を徹底して行っています。</p> <p>支援の中で、福祉課や子育て支援課とも協力体制をとっている点が、大きいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>かなりデリケートな内容ですので、学校との連携も一つポイントになるかと思います。学校からは情報共有はできても特定のご家庭のお子さんに声かけが難しいところがあるかと思います。</p>
<p>茂井委員</p>	<p>支援について最終的に手をあげてくれるのはご家庭からでしょうか。</p>
<p>中村主査</p>	<p>保護者の方からです。ホームページ等を見てお問い合わせいただくことが多いです。</p>
<p>丸山委員</p>	<p>生活困窮世帯の方などがフリーでアクセスして相談ができる体制が整っているということですね。そこから、ニーズを掘り起こして支援を届けているところに感謝しています。</p>
<p>岩崎チームリーダー</p>	<p>委員さんがおっしゃるとおり、校長先生をはじめ学校の方に私どもの事業概要や成果を理解していただいた上、保護者の方から学校へ相談があった際には、必要に応じてこの取組をご案内いただける体制が整っています。</p>
<p>塩野委員</p>	<p>p 5 コロナの関係で、人数が減っているとのことですが、コロナ対策をした上で、スペースを確保して、以前と同じような人数が通えるようにしてもらいたいです。</p> <p>また、学校と様々な連携をしているとのことなので、子どもへのメンタルのサポートを充実化させていってほしいです。</p>
<p>岩崎チー</p>	<p>スペースについては、可能な限り確保していきます。</p>

ムリーダー	<p>p 7 アンケート結果（1）④にあるように、学級のお友達と出会ったとしても市役所に用事があると言えることで、安心感を与えられている側面も考えられますので、会場については検討していきます。</p> <p>メンタル面でのサポートでは専門員を配置しているほか、家庭訪問という形でアウトリーチの充実も考えていきます。</p>
教育長	<p>教育委員会として、特に学校としてこれからの連携の在り方がますます重要と考えます。学習支援事業が始まるときも、学校との連携が非常に欠かせず、それがないとなかなか中身が深まっていかず、子どもたちの掘り起しも進まないだろうということで、かなり積極的に協力体制を築いてきました。</p> <p>その中で、学校が前面に出すぎるとよろしくないとも考えます。子どもたちにとっては、学校外だからこそ学べることもあると思います。そのため、今の距離感がちょうどよいと思っています。</p> <p>掘り起しという部分で、さらに福祉総合支援チームと連携を図っていきたいと思います。</p>
市 長	<p>取組の期待できるような効果などが報告されていますが、良い面だけでなく、生活困窮世帯の中にもさまざまな家庭環境があるかと思っています。そのあたりの実態はいかがですか。</p>
中村主査	<p>費用がかかるものではないので、案内さえすれば結びつくと考えたいところですが、一定数は結び付かない実態があります。ケースワーカーであれば何度も家庭訪問を行うので、ご案内を差し上げているところです。</p> <p>今後はそうしたご家庭には、学習支援にこだわらず、訪問や面談などの様々な手法で、少しずつ支援につなげていきたいと考えています。</p>
市 長	<p>直接的な学習のサポートだけでなく、そうした面での支援もしたいですね。</p>
茂井委員	<p>ふじみ野市では、保健センターと児童発育・発達支援センターが同じ建物の中にあり、非常に珍しいと思っています。保護者によっては、発育・発達支援センターを嫌う人も多いので、同じ建物の中にあることで、就学前から支援ができ、良い形で連携ができると思います。</p>

市 長	<p>フクトピアの 2 階にある児童発育・発達支援センターは、現在は民間が事業を行っておりますが、令和 3 年度に審議会を行い、令和 4 年度にはふじみ野市立に移行していこうと考えております。保健センターとの連携をして掘り起しや支援に結び付けたいと考えています。</p>
富田教育 長職務代 理者	<p>p 9 について、これからの事業展開や課題をお聞かせください。</p>
岩崎チー ムリーダ ー	<p>実際に高校を中退してしまったお子さんへ声掛けを行って、改めて学んでもらっています。 福祉と教育の連携という点で、手を取り合いながら進学後の支援について研究していきたいと考えます。</p>
丸山委員	<p>学び直しという点で、勉強だけがすべてではなく、一般の方とのつながりやふれあいを通して、子どもたちが人生を諦めないよう支援をお願いしたいと思います。</p>
岩崎チー ムリーダ ー	<p>先輩の背中を見て育っていくというひとつの形は学習支援を通してできています。 生涯学習を通しての知恵の獲得をどう束ねていくかも研究していかなければならないと考えています。</p>
市 長	<p>県のスポット事業からスタートして、それを引き継いでやっています。私の就任後に、寺子屋を学校の校舎や公民館を使ってやってきましたが、本事業については、学習支援だけにこだわらず総合的に支援していきたいと考えております。 地域で、直接的な社会貢献とその活動をする背中を見ている子どもたちにとっても素晴らしいことだとよくお話しさせていただいています。そのようなつながりの温かさを感じてもらいたいと思っています。</p>
市 長	<p>それでは続きまして、議題（2）その他に移ります。 委員の皆さまから何かお話になっておきたいことはありますでしょうか。</p>

市長	<p>――同なし――</p> <p>本日は皆さんと情報の共有ができたと思います。今後ともご協力をお願いできればと思います。ありがとうございました。 それでは、進行を事務局へ戻します。</p>
事務局	<p>以上で、令和2年度第1回総合教育会議を終了します。</p>